

2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [山崎文也]

学年・組・番号 [3年 G組 41番]

研究課題: ハンドボールにおける両面テープ代替案の多角的考察

(英文) Multifaceted consideration of alternatives to double-sided tape in handball

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

高校の屋内ハンドボールでは、粘着剤として両面テープがよく用いられるが、両面テープは装着しにくく、また使い捨てのためゴミの問題などがある。本研究では両面テープの代替案としてアクリル系粘着剤スプレー付き指サックとロジン系粘着剤スプレー付き指サックの2つを用意した。

本研究の目的は、それぞれにどのような適性があり、両面テープをどのように代替できるかを、実験・アンケートから得られるデータを通して考察することである。

実験では、両面テープと2種類の指サックそれぞれで着脱時間の計測、ゴミの計量をし、またキャッチボールをして掴みやすさなどの使用感のアンケートを取る。そして、それらのデータを初心者と経験者で区別し、考察した。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

本研究から、初心者と経験者のデータには差があり、指サックは手軽さで優れているため初心者の両面テープ代替に適性がある一方、強度の高いプレーを望む経験者には適性が低くあまり好まれないことが分かった。また、指サックの中ではアクリル系粘着剤スプレー付き指サックのほうがロジン系よりも適性が少し高かった。ゴミについては、質的な観点で言えば、指サックのほうが両面テープよりもゴミは1/3ほどで済むため、環境によいという結果になった。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3年G組 山崎文也

研究分担者

担当教諭 秋山和弘 教諭 (受給額: 20000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



←キャッチボールの様子



←指サックにアクリル系粘着剤スプレーをつける様子



←両面テープのゴミの計量の様子